

ほしのうたプロジェクト実行委員会企画

世界天文年 2009 日本委員会公認イベント

みんなで作ろう・みんなでうたおう
ほしのうた プロジェクト

May.2009 ほしのうた実行委員会
カガクノトビラプロジェクト 小林道夫

1. 本企画の主旨

2009 年は世界天文年です。世界天文年の目的は、世界中の人々が夜空を見上げ、宇宙の中の地球や人間の存在に思いを馳せ、自分なりの発見をしてもらうこと。世界各地ではこの目的に沿って、天文学と宇宙科学に関する行事が様々な規模や形態で展開されています。

そんな中、「ほしのうた実行委員会」のコアメンバーであるカガクノトビラプロジェクト 1 では、世界天文年周知に一役買えるような、星をモチーフにした楽曲を製作したいと考えました。音楽は古来より最もポピュラーな娯楽の一つであり、また人と人との想いを共有するための重要なツールでもあります。星を見つめ、自分の存在を見つめる人々の想いの拠り所となるような楽曲を作ることで、その楽曲を歌い、演奏している人は同じ想いを共有しているという“アイコン（象徴）”にしたい。このような主旨でこの企画はスタートしました。

悠久の昔から輝き続ける美しい星たち。その星を見ることで人はなぜか心を揺り動かされます。そして良い音楽を聴いたときも、同じような感動を得ることが出来ます。家族や仲間といった大切な人たちと心をつなげて歌うことが出来れば、その感動は何倍にもなります。星と音楽を通じて、そんな感動を一人でも多くの人たちに届けたい。この主旨にご賛同いただける企業・団体・個人のみなさまを広く募集しております。よろしくお願いたします。

1 カガクノトビラ <http://kagaku-no-tobira.com/>

2. これまでの経緯と概要

まずはオリジナルとなる楽曲がなければ始まりません。作・編曲は、同じく本委員会のコアメンバーである音楽制作チーム DEEP FIELD (ディープ・フィールド) 2 が担当。コンセプトは21世紀の「きらきら星」です。単に歌いやすい童謡・唱歌的なものを超えて、現代的かつキャッチーなメロディを、という高い要求にチャレンジしました。

雛形となる歌詞は、山梨県立科学館・高橋真理子氏の手をお借りして、山梨県立科学館プラネタリウムプロジェクト「星の語り部」3 さんをお願いしました。高橋氏は、「みんなで星をみあげ、その想いをつむいで共に歌をつくろう」というコンセプトで、全国公募によってつくられた「星つむぎの歌」をプロデュースされました。この歌は、平原綾香さんが歌い、土井隆雄宇宙飛行士がスペースシャトル搭乗時のウェイクアップコールにもなりました。また「星の語り部」さんは山梨県立科学館プラネタリウムを拠点に、プラネタリウム作品づくりなど表現・創造・交流をテーマに活動しているグループです。

製作は歌詞全体をいくつかのパートに分け、幅広い年齢層を持つ「星の語り部」さんのメンバーがリレー形式で詞を繋いでいく、という試みが行われました。この模様はカガクノトビラ製作のポッドキャスト番組「アストロ・ラジオ」4 で配信されています(2008年12月号~)。

このように無事歌詞と曲は出来上がりました。次は歌のレコーディングです。まずは作詞を担当した「星の語り部」さんの合唱バージョンを収録。そしてエフエム甲府さんの世界天文年番組のテーマ曲にするため、プロの方の歌うバージョンをとの要望がありましたので、こちらも製作しました。歌うはカガクノトビラプロジェクトで天文関連コンテンツに多数出演中の声優・歌手の土屋亜有子さん、そして DEEP FIELD にて楽曲製作を手がける他、ライブを中心に活動されているシンガー・ソング・ライターの KOYO さん。女性シンガー二人の爽やかなハーモニーが魅力のバージョンが出来上がりました。

このような経緯を経て2009年4月、楽曲は完成。この2つのバージョンをオリジナル版とし、さらに普及ステージに入るべく特設WEBサイト5 を開設しました。このWEBサイトをベースに、今後カバーの楽曲を集約していきます。

2 DEEP FIELD <http://www.deepfield.jp/>

3 星の語り部 http://park.geocities.jp/meme_no_mori/kataribe/

4 アストロ・ラジオ <http://kagaku-no-tobira.com/proj/004/index.html>

5 ほしのうた.com <http://hoshinouta.com/> (5月中旬より募集スタート)

3. 楽曲の利用について

楽曲は誰でも煩雑な手続きなしに利用できることが、第一条件であると考えます。あくまで“普及”を目指すのであって、商業的な“ヒット”が目標ではありませんから、雛形となるオリジナルを提供する立場からは商用非商用の区別もいたしません。例えばある企業が商用に供したことで普及に弾みがつくのであれば、それは積極的に利用すべき手段であると考えべきであって、そのことでその企業に利益が発生しても全く構わない、というスタンスです。二次利用による楽曲の販売についても同様であって、その楽曲がヒットしたからといって利用料を請求することは一切ありません。

ただ誰でもカバー可といっても、「ほしのうた」というオリジナルの理念を引き継ぐことは必須条件となります。またオリジナル製作に対する敬意を表する意味でも原作者の表示は必要であると考えます。これらの要件を満たすライセンス保護の仕組みとして、クリエイティブ・コモンズを採用します。クリエイティブ・コモンズの定める4項目のライセンスのうち、「ほしのうた」楽曲について採用する項目は以下の通りです。

【採用する】

・表示(Attribution)

その作品の利用に関しての原作者の表示を求めるか

【採用しない】

・継承(Share Alike)

その作品につけられたライセンスを継承することを求めるか

・非営利(Noncommercial)

非営利目的に限ってその作品の利用を認めるか

・改変禁止(No Derivative Works)

その作品をそのままの形でのみ利用を認めるか

よって組み合わせの略号は“表示(CC BY)”となります。これに加え「メロディは可能な限り変えないこと」、「歌詞を差し替える場合は“ほしのうた”という主旨に沿った内容とすること」、この2点を利用条件として付け加えます。なおクリエイティブ・コモンズの詳細は、NPO法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパンのWEBサイト [6](http://www.creativecommons.jp/) などをご覧ください。

6 クリエイティブ・コモンズ・ジャパン <http://www.creativecommons.jp/>

4. 普及へのアプローチ

本企画は天文コミュニティ 7 から一歩踏みだして、他のコミュニティとともに発信する世界天文年 PR 企画と言えます。音楽コミュニティはもちろん、ここ数年で著しい成長を見せたインターネット(主に動画投稿サイト)に発表の場を特化したコンシューマ・ミュージシャンとも呼ぶべき人たちも普及のためには無視できない存在と言えるでしょう。ただ主に CD やライブを発表の場とし、プロ指向の強い既存の音楽コミュニティの人々とはアプローチが異なるため、ここでは仮にネットコミュニティと呼ぶことにします。

これら 3 つのコミュニティを軸に普及活動を展開していくのですが、それぞれのコミュニティは構造も異なれば有効な伝達手段も異なります。よってそれぞれのコミュニティに適したアプローチと展開を考えなければなりません。ただ大金をかけて一気呵成のプロモーション戦略ではありませんから、最終的に集約されていくべきところ、それはどのコミュニティにおいても“人と人とのつながり”です。以下、各コミュニティへのアプローチ方法を述べます。

4-1.天文コミュニティに向けて

4-2.音楽コミュニティに向けて

4-3.ネットコミュニティに向けて

4-4.その他

7 コミュニティとは、ここでは特定分野に関わる・興味のある人たちを指します。

4-1.天文コミュニティに向けて

天文コミュニティは分野ごとに主要な統括団体があり、情報伝達も各団体から加盟メンバーへという流れが主流のようです。横の連携はあまり活発でなく、典型的な上意下達型と言えそうです。

世界天文年 2009 は主に国際天文学連合の提唱であり、国内では世界天文年 2009 日本委員会が統括しています。構成団体は以下の通り。

- ・ 日本学術会議
- ・ 国立天文台
- ・ 宇宙航空研究開発機構
- ・ 天文学振興財団
- ・ 日本天文学会
- ・ 天文教育普及研究会
- ・ 日本公開天文台協会
- ・ 日本プラネタリウム協議会
- ・ 大学および各天文関連団体

本企画はすでに公認イベントとして承認済みですが、公認イベントとなっても日本委員会側から各団体へ働きかけをしてくれるわけではありません。よって上記各団体への協力依頼が天文コミュニティへのアプローチとなります。カガクノトビラプロジェクトは日本プラネタリウム協議会の正会員ですので、積極的に各団体に協力依頼をしていきます。

具体的には全国のプラネタリウムに対して、館内のあらゆるところで音源を利用していただけよう働きかけを行います。また日本委員会の主催企画「めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう！」や例年 8 月初旬に行われる「スターウィーク」等、天体観望イベントとの連動を目指します。これらのアプローチは 6 月に開催される日本プラネタリウム協議会の全国大会（明石市）にて発表、広く参加を呼びかける予定です。

4-2. 音楽コミュニティに向けて

音楽コミュニティは複雑な構造を持っていますが、大別するとメジャー系アーティスト・インディーズ系アーティスト・非商業系アーティスト、の3つのセグメントに分けられると思います。このうちメジャー系アーティストの世界は資金とコネクションがなければ割り込む余地はないでしょう。逆に非商業系アーティストはクラシック系に多く、活動範囲を広げるというよりも地域密着の活動を主にするタイプの人が多いように感じます。よってアプローチのターゲットは主にインディーズ系アーティストです。

インディーズ系アーティストはインディーズレーベルからのCDの発売とライブによる活動を中心とし、総じて上昇志向やプロ意識が強く、プロモーションの機会があれば積極的に参加が見込めるセグメントです。ライブ活動は特定のライブハウスをホームグラウンド的に利用することが多く、またライブハウス側でも自らレーベルを持ち、アーティストの発表の場を広げる努力をしているようです。またインディーズ・アーティストに特化したプロダクション、レコード会社も数多く存在します。

このようなレーベルを対象に本企画への参加を呼びかけ、カバー曲を募ります。手始めには製作委員会所属団体の知り合いから声をかけ始めますが、音楽コミュニティは横の繋がりも強く、意外な広がりを見せることも珍しくありません。またミュージシャンがそれぞれのオリジナルバージョンを発表してくれるようになれば、カバーミュージシャンが集うようなイベントも可能となるでしょう。

さらに本企画によって天文コミュニティと音楽コミュニティの接点が出来、今後プラネタリウムコンサートなどによる両者の交流に発展することを望んでいます。もちろん本製作委員会においても「ほしのうた」をフューチャーしたプラネタリウムコンサートを企画、展開することでその一助を担えればと考えています。

4-3. ネットコミュニティに向けて

インターネット上の動画投稿サイトを活動の場にするアマチュアの作家・ミュージシャンたちは、現在草の根の普及活動を行うにあたって無視できないほどの存在感を示しています。近年の急激なコミュニティの拡大に伴い、中には高いクオリティを持つ作品を輩出し、しかもしっかり固定オーディエンスが付いているという、プロ顔負けの人たちも存在します。

このセグメントに属する人々は、情報や流行に敏感であり、また横の繋がりも強く、目新しいものや面白そうなものに対してのレスポンスの良さは特筆に値します。ただ大企業やマスメディアに対しては反目しがちで、あくまで自分たちのテリトリーの中で自分たちのものと認められた盛り上がり（俗に言う“祭り”）に積極的に反応する傾向にあるようです。

このコミュニティへのアプローチは、もちろん本製作委員会からの個人的なツテを辿るということも行いますが、より効果的なのは彼らが理解者であると認識している企業を巻き込むことであると考えます。例えばニコニコ動画を提供している株式会社ドワンゴ（直接の運営は100%子会社の株式会社ニワンゴ）、音声合成ソフト「初音ミク」発売元であり現在ユーザーコンテンツ投稿サイトを持つクリプトン・フューチャー・メディア株式会社など。また楽曲制作のほとんどはパソコンを用いて行われる（DTM = Desk Top Music）ため、その専門誌である「DTM マガジン」の発売元である株式会社寺島情報企画なども挙げられます。これらの企業を視野に、協力要請を浸透していければと考えています。

4-4. その他

その他ではマスメディア（TV・ラジオ局、新聞社等）が考えられますが、在京キー局や全国紙では扱われるのは非常にハードルが高いと言わざるを得ません。ただ科学館等では地元紙・地元ローカル局と記事の提供などで繋がりがあることが多く、協力館からのアプローチは有望であると言えるでしょう。

また非商業系として、合唱という分野があります。最近ではアンジェラ・アキさんが歌った「手紙～拝啓 十五の君へ～」がNHK 全国学校音楽コンクール・中学生の部の課題曲となり、ヒットを記録しました。他にも「翼をください」や「あの素晴らしい愛をもう一度」など、ポップスから定番合唱曲になったものも少なくありません。当然科学館は学校との繋がりも深いので、こういった方面へのフォローも忘れずに行いたいと思います。

5. 年次計画

基本的に天文関連のイベントがあれば、それに紐付けて連携各団体と何らかのイベントを打てればと思います。下記に示した天文イベントは例年季節の風物詩として必ずニュースで取り上げられるものばかりであり、また7月22日の皆既日蝕（中国～南西諸島の一部）は国内では数十年に一度の一大イベントとして、各方面に大きく取り上げられることでしょう。

5月中旬 特設WEBサイトオープン (<http://hoshinouta.com>)

6月22～24日 日本プラネタリウム協議会全国大会（於：明石市立天文科学館）

7月7日 七夕

7月下旬～8月下旬 夏休み

7月22日 皆既日食

8月26日 伝統的七夕（旧暦7月7日）

10月3日 中秋の名月

12月下旬 世界天文年グランドフィナーレイベント（詳細未定）

これらの天文イベントに合わせて普及のためのイベントを催行することにより、パブリシティ効果の向上を狙いたいと思います。

6. 協力団体

【主催】

ほしのうたプロジェクト実行委員会

- ・カガクノトビラプロジェクト
- ・DEEP FIELD
- ・山梨県立科学館プラネタリウムプロジェクト「星の語り部」

【後援】

世界天文年 2009 日本委員会

【協賛】

株式会社セガトイズ

株式会社アストローツ（順不同）

【協力】

山梨県立科学館